文章の構成をとらえよう

名前(

1 最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。 島谷さんの学級では、 「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。 これらをよく読んで、 あとの問いに答えましょう。 次は、 島谷さんが

文章1

しいと思いました。

本業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しく使うことができている学級の様子をろくがし正しく使うことができている学級の様子をろくがし正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しい使い方を知ってほしいとの様子をろくがしたが、

せいしました。 せいしました。 を対し、五年生の時にさいばい委員会でこの話を聞き、五年生の時にさいばい委員会でこの話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で

各学級にしょうかいしたいです。道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを苦手な人もしたしむことができるように、ルールやわたしは今年、運動委員になりました。運動が

【文章2】

ことです。 委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めるあたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動

て、各学級にしょうかいしたそうです。そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんがといく使うことができている学級の様子をアろくがしれいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじや業する前に話してくれた、活動への思いがすばら卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばら

せいしました。
せいしました。
日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなの日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動をふり返りました。そして、当番のために新たな活動をふり返りました。そして、当番のために対しました。

各学級にしょうかいしたいです。道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを苦手な人もりしたしおことができるように、ルールやわたしは今年、運動委員になりました。運動が

- 説明として最も適切なものを、次の島谷さんは、【文章2】の....... の 1 1 から4までの中から一 の部分をどのようなことに気をつけて書い つ 選ん で、 そ の番号を 7 書きま 1,1 ます か その
- 1 自 分 0 考 え が明 確に伝わるよう E 自分の考えを最初に書い て 1, 1 る
- 2 自 分 0 考 え が 明 確 10 伝わるよう に、 引 用 することで、 書 き出しをく ٠;, う L 7 1.5 る
- 3 0 人 が 読み ゃ す 11 よう に、 事 実と 感想 とを区 別 l て、 書き出 しを 書 Ų て 11 る。
- 4 0 が 読みやす W ように、 自 分の 考えとそ 0 理由を最初に 書 11 て 11 る。

Ĵ 学級の友達に主張する文章を書くことにしました。 れをよく読んで、 丸山さんの学級では、国語の学習で、 あとの問い に答えましょう。 気持ちよく学校生活を送ることができるように、自分の考えを 次は、 丸山さんが書いた 【文章の下書き】です。

【文章の下書き】

人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

づけることが大切だと考えます。 L n もが気持ちよく生活するために、 一人一人が責任をもって 使っ た 物を か

られ 所に 一輪車 遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、 わ きち たしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。 りませんか。 4 置か な なさんは、 がかたづ か んとかたづけることが大切ならば、 n ったりすることが、エげんいんなのだと思います。オその他にも、 ず、 休み時間後の校庭にボールが残されたままっころがっているのを見かけ すみの方に**ウ**つ わたしは、ときどき見かけることがあります。イ けられずに残されて います。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が そうじたん当の 人などが か 時に たづけ は きち 遊び終わったらすぐに れば みんなが使 んとか よい という考えも たづけ 決 たこと め ら 7 れば、 ħ た

しか あるか Ų もしれません。 わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。 確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづ けてくれるでしょう。

か たづ の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。 けておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができると思います。 が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。 そのために ŧ わたしは、

遊具

だ

17

ではありません。そうじの道具や図書館の本も、

使った人が元の

場所

にきちん

- ま で 丸 の さん 中 か ら一つ が 考えた 選んで、 【文章の下書き】の構成についての説 その番号を書きましょう。 明として最も適 切 なも 0 を、 次 0 1 b 4
- な がら 自 分の 読み 主張を最後の段落に書くという構 進 め ら れるようにしている。 成にすることで、 読み手が主張と事 例 との 関 係を
- 2 強 自 調 して 分 0 いる。 主張を 最初 Z 最後 0 段落に 書 < Z 1.1 j 構 成 10 すること で、 自 分 0 主 張 す る内 容
- 3 進 自 め ら 分 れの たるようにしていま張を最後の いる。 段落に 書くと ١,١ う 構成 にすること で、 読み手が主張を予想 L なが ら読 4
- 主 張 を 分 伝 0 えている。 主張を最初と最後 0 段落に 書 < Y 1.1 う 構成に すること で、 複 数 0 異 な る 内 容 0